「綾鼓」を歩く

今回の舞台は筑紫国木丸殿、現在の福岡県朝倉市にある恵蘇八幡木丸殿あたりと考えられます。

博多駅から西鉄バス日田行きに乗って、1時間半ほど行くと朝倉インターチェンジにつきます。そこからタクシーで今回の目的地、「恵蘇八幡木丸殿」「桂の池跡」「福成神社」に向かいました。

能「綾鼓」のシテ（主人公）が仕えていたという「木の丸殿」は、筑後川の山田井堰から道路を挟んで向かい側の小山を上がった場所。謡では「きのまるどの」と読みますが、標識には「このまるどの」とありました。由緒によると第三十七代斉明天皇が百済西征の折に朝倉橘広庭宮を建てられ、その後まもなくこの地で天皇が崩御されたために、皇太子中大兄皇子がご遺骸を御陵山（朝倉山）に葬られ、その陵下の山腹（現在の八幡宮境内）に丸木の殿を建てられたのが「黒木の御所」「木の丸殿」と呼ばれるこの地だということです。今は「木の丸公園」になっていますが、その一角には中大兄皇子（後の天智天皇）によって最初に作られたという漏刻（水時計）のレプリカが設置され、毎年時の記念日（六月十日）には式典も催されるそうです。

次に、車で十五分ほど離れた、このあたりの観光の目玉「三連水車」に向かいました。朝倉インターを降りてから恵蘇八幡、山田井堰、三連水車と、この一帯のどこを走っても目にはいるのは、一面の水田と豊かに流れる筑後川です。この日は三十六度を越す暑い一日でしたが、水に恵まれた朝倉の景色が涼を呼んでくれました。今はない、桂の池も舟遊びの御遊をするほど、大きな池だったのかもしれません。

「桂の池跡」に行くと、桂の木の横に宝生流家元綾鼓演能記念碑があり、少し離れた福成神社横には斉明天皇の女官に恋をした庭掃きの「源太老人」と女官の墓とされる小さな石が二つ並んでありました。

けっして名所旧跡というほどの場所でも、観光地として交通の便のよいところでもありませんが、伝承が先か能が先かは私には判りません。能「綾鼓」の謡の中にもひかれる後撰集恋之歌「小山田の苗代水は絶えぬとも、心の池の言ひは放たじ」とともに、老人の尽きせぬ恋の深い想いが、最後に印象に残った旅でした。

所要時間は、JR博多から高速バスで往復三時間・さらにタクシーで二時間現地を回りました。

平成十九年　神無月吉日

廣田　幸稔

←山田井堰　鳥居の向こうは筑後川がとうとうと流れる

←恵蘇八幡木丸殿

←漏刻

←三連水車　遠くに朝倉山が見える

↓桂の池跡の碑　演能の碑と桂の木